

1) 活動の背景

大阪市生野南部地区は、古くから街が発達し、戦後も当時の町並みがそのまま残っている地域である。



そのため、住宅については、築50年を超えるような老朽木造住宅が多く存在する。

住宅戸数・約9,000戸のうち、老朽木造住宅戸数は、約6,500戸で70%を超える高い割合となっている。



道路については、地区の東側は戦前行われた区画整理事業で道路の幅員は比較的確保されているが、一方通行の道路が多い。

地区の西側、特に住宅地区改良事業の区域については、4 mに満たない狭隘道路や、行き止まり道路が極めて多い。またバス以外に地下鉄等の公共交通機関がなく、あっても最寄り駅まで遠い。



公園についても、生野区自体が大阪市内でも、公園面積が少ない方の区となっている。

このように、当地区は道路や公園等が未整備な上に、老朽木造住宅が密集し、防災面や避難場所等の住環境の面から、多くの課題がある。

また生野区は、当地区も含めて、大阪市内でも有数の、工場数、事業所が多い区であり、住宅地もあるが多くは工場等が混在する地域であり、しかも工場・事務所のほとんどが小規模なものである。長い商店街も地域に有るが、大阪市内の他の地域と同様、徐々に往年の活気を失ってきている。また人口については、人口が減少してきている区の一つであり、その割合も大阪市の他の区に比べても多い。また高齢者が人口に占める割合も高く、高齢化が進んでいる地区であるといえる。

まちづくりについては、戦前からの市街地であることから地元の連合会や区役所等が企画した行事や日頃の地元の町会の活動を通じて、住民のつながりも強い地域である。